

911.3

八

古蹟

河内  
補  
加  
美

宋



依此袖の美帝

よきの帝さかい ありぬ

唐山の語まじりて又棟材を輯

詞ことば此こゝありと拾ひろひ志こころしりて

詩うた純まこと長なが珠たまも造つく甲かあせりて我

持も桑くわの袖そで調しらべ子こおるも其その心こころあそや

あゝ奥おくに袖そでのうまましし表うら題だいなる





寸書解の書集ひひ免あつくものほし  
年ひさし恋いさく母ははくひろこなるこくこ六む大おほ空あか城じやう  
毛けははふふむむううりりふふちちりり江えはは魚ういととははみ  
ありありききよよろろ  
漢是かんぜいくく鳥とりてて魚うい魯ろのの得とくり  
るるんんちち乃なり遠とほ自みづか然ひおのるるをを見みまま  
何なにもも祿ろくをを十じゆくくささひひ某まつかう大おほ人のひとのの檢たか正かし

とほふ再またびび家いえ乃なり榑ふ木き子こ彫う雅みやび此こゝ  
送あはりあつあかかねね人ひと常とこ小こ是こゝををもも閱み  
とぬとりり連れんとと依よとののああららををつつりり  
妻あはれれ此こゝ段だんのの深ふかとと利きおお乃なり柱はしらりり  
至いたるとと此こゝ一ひと卷まき此こゝ林はやし子こ奈な奈なををととふふまま  
ととんんをを此こゝ履はきははくくとと七しち日にちとと拜ひらぶぶ



いしちや成多ん車こと 走はなや翁おきな 乃  
本意ほんい了りしと我われのしめ

享和二年季穰

換英信堂主人

西田清誌

例法袖れいぽうそでのしめ

四季乃詞

正月

初月はつげき 端月はなげき 太常月たうじょうげき  
辰月たけつき 亥正ひげせい 大簇たいしやく

正月	初月	端月	太常月
えりえ朔	明の去	けさの去	花の去
君ころころ	四方の去	玉の去	花
ころころ	その空	その空	初日
初日の虫	その處	こつのは	その朝
あひあひ	初よみ	包井ひ	その朝
その朝	急ぎ細	急ぎ糸	年終

そりー玉	門をさうり	門すり	大かざり
あめさうり	かさり椒	くさうりあひ	ますりの内
かさん様	大あく	たごこめ	くひつこ
やうらひさる	ゆづりこ	世やとさ	うう白
かまごさ	かごこさ	うき鯛	たりうど
田つらり	まのり	そりふ	中ごさ
さとしけ	くさうりま	そりあ	らう曆
海さうり	ねさうり	いねつむ	室引
まそめ	まももめ	らうごめ	まのり袖
あのり袖	まごさめ	うごひ袖	松くやし

そのまき	あ	候	なせうり	けまきうり
そらら美	とごい	こ	てまうり	うりうり
袖	袖ごさう	方	案	まごさ
あまあひす	たごり	ま	物	あひま弁
子日の松	小松川	袖ごさ	あひま	せくご
さうり	せりり	あひま	物	あ
店あらし	松の吐	初商内	けうり	どんど
た養花	かまごさ	うご	杖	二せうら
せうら小袖	かま木	ひち	帯袴	やぶり
秘来草	えん日抄	梅	花の兒	この心



玉	門	門	大
あめさう	かざり	うきうき	まんの内
かさん様	大	なごこめ	くひつこ
やういさ	ゆづう	世やとさ	うろう白
かま	かざり	うき	たりうど
回つらり	さうり	さう	やとさ
さとう	くま	さう	さう
海	ねさ	い	宝
さ	ま	ら	さ
あ	ま	さ	さ
あ	ま	さ	さ

玉	門	門	大
あめさう	かざり	うきうき	まんの内
かさん様	大	なごこめ	くひつこ
やういさ	ゆづう	世やとさ	うろう白
かま	かざり	うき	たりうど
回つらり	さうり	さう	やとさ
さとう	くま	さう	さう
海	ねさ	い	宝
さ	ま	ら	さ
あ	ま	さ	さ
あ	ま	さ	さ



花のさげ	つららさ	もめらさ	やあぎ
さぶ 柳	系やあぎ	つをて	ふまをた
二のい桂	ひこま	あもえ	トもえ
くくくら	松の花	あもえり	十一りの花
木の貫	葉のめ	聖大根	よめをさ
うくひ守	系よま	野まを	あもえ
玉千子	あし魚	のり	のり
青のり	系 凡	あもえ	凍りけり
何と雪	雪 解	あもえ	ゆきま
系 雪	さえり	あもえり	保ひめ
のり	あし	あもえ	

二月

さくら 物花相 初見月 令月 夾鏡

初午系	松とん舎	佛の別	さうし松
ひいん	長 宋	あくこの	うし
いとゆふ	あもえり	其物の能	柴 能
くくくら	くくくら	初	電
あし	系	つさ	山
さぶ	系	あもえり	
まて	まて	あもえり	
厂の	つ	あもえり	
くくくら	あもえり	あもえり	

すまめの子	ねむし	法をさる	物
くぬよき	小こし	障	たびん
うら	こくろ子	席の角	さくし
猫の恵	まろけ	ここの	田
田	ついで	こさひ	妻
う	ついで	ふつ	板
ぼろ	くさ	菜の花	大こん
まの	まが	つ	こん
つ	う	さ	つ
い	い	ぜん	さ
さ	う	さ	さ

あ	ま	こ	や
さ	つ	つ	あ
鬼	お	お	祝
う	ち	い	ま
中	こ	さ	田
細	お	風	田
出	二		い

三月

延生 姑 中 姑

上巳 ひな祭 箱遊 杭泥 湯解 曲水  
 弓りあられ 八十八夜 くらね くらね



らひ入

花をよく

人丸忌

守りし花

花朝供

花舟の心

花の心

目入しふ

ふかき花

花の心

花の心

花の心

さくらさくら

さくらさくら

さくらさくら

花の心

たぬきさくら

さくらさくら

さくらさくら

花の心

つらね

つらね

つらね

花の心

素うらら

素うらら

素うらら

花の心

粟子 蚕

あまのこ

あまのこ

花の心

苗 しろ

水口まわり

花

花の心

花見 花ぢ

花ぢ

花の心

花の心

巻のこき

花のこき

花のこき

花のこき

花むこ

花よめ

花よめ

花の心

巻りこ

細の花

花の心

花の心

まむら

花ごご

花ごご

花の心

ひとこ

花ごご

花ごご

花の心

布引さくら

さくらさくら

さくらさくら

花の心

み雨さくら

さくらさくら

さくらさくら

花の心

あがんぼう

さくらさくら

さくらさくら

花の心

こしく

さくらさくら

さくらさくら

花の心

小とめ花

あいの花

あいの花

花の心

あまのこ

あまのこ

あまのこ

花の心

あまのこ

あまのこ

あまのこ

花の心









五月

さくらさき くらげ花のり くらげ入月 薤 實

鶯 千

せうごうく よのぎさく れせきふ

おやめの逢

せきふさけ せうぶあ せきぶ太刀

かざりなご

あくるめさ のぼろかざり のかりん

紙のゆり

葉の目 葉あうぬ ちんぷんり

さくらまき

かきけいさ くらくさろ ぎき 四尾

やまふれ

梅 ぶ くらぎ洞あ 行つゆ日

かざりなご

けつろ花 けつろち せんえんの花

福の花

くりの花 ゆきの下 さくきの花

福の花

すつむ花 麦刈 くらせん州

ゆり まく ちりけの花 さくら花 萩の花

ゆり 鬼ゆり 姫ゆり 夏まきく 石 竹

まこあけ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 かしらり草

まこあけ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅

あまのやこ ちりけの花 萩の花 石 菖 菟 びんま梅



麻のみ さつきやま

六月

さつきやま

且月 瓜胡 林鐘

妙家

妙めら

うぐ

糸

松園全

山

かつきき

こをき

夏

川中

抱うど

竹ぬ人

細

川

けのこ

日か

う

あふぎ

うら

うら

雲

さつき

うら

あ

之

虫

さつき

一

之

あつさ

う

し

ん

沖

う

う

夏

ま

う

い

り

か

き

か

望

さ

き

き

つ

尊

あ

川

母

い

蓮

ふ

蘭

か

蹴

井

や

か

む

大

め

そ

夏

お

こ

新

川

お

さ

青

善

枝

秋ちりき

秋のそと

縁のそと

ゆらゆら

七月

久月

桐秋

其月

立 秋

そと秋

ひさの秋

初を縁

りしつり

むらさき

けし合ひ

里しつり

深く遠

ひこぼし

天の川

つらきへ

深くひれ

とて琴

かし小袖

秋の七草

七草まつり

池の坊主花

出乃糸

清水ふ日

らひの

うらふん

ふ皿 供

遠 火

おくり火

とろろ

ささろろ

まろりと

ゆらと入

ゆらゆら

生男と女

さし結

道 飯

おどり

小町踊

すまじ

辻 角力

庵とく

うらみす

そと火

霧 つり

ゆらゆら

霧 まり花

まりあ

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり

霧 まり

まり

まり

まり







やあゝ やうとろ 赤つつき くりり ひと

厚 くりの奴 厂の奴 厚のさより 廉 廉俗

廉乃恋 小男 くらげ くらげ子 小いしし

太刀の魚 ひとつけ くらげ くらげ さいわい

さきさきまき びとつけ うみさき ねふふ

おらあゆ きめりて ちうり 四もつ

りらあま ちうりて ちうりて 厚い

かくし ちうりて ちうりて いまふ

引板 いちりて ちうりて ちうりて

いあしりろ 八つち ちうりて ちうりて

ちうりて 世に遊む 花 畠 花 見

花 聖 紫けいさう 乃身お 尻 ちうり

すくすく いちりて 考 鬼のちうり

藍のむ ちうりて ちうりて 面 ちうり

けいさく ちうりて ちうりて ちうりて

日まわり ちうりて ちうりて ちうりて

ひまわり ちうりて ちうりて ちうりて

ちうりて ちうりて ちうりて ちうりて

ちうりて ちうりて ちうりて ちうりて

ちうりて ちうりて ちうりて ちうりて

ちうりて ちうりて ちうりて ちうりて

ちうりて ちうりて ちうりて ちうりて

大根まぐ	かじりまぐ	あまのあ	ぬきふ
ずいいき	ぬらご	あじ菜	な海らや
くせうり	そりふさむ	せしき	ぶさう
ぐえあ	らり	あがりいごり	うま
あふさき	あごうき	ほおろき	こぼり
つーあき	いさう	ばんあん	あけ
らささ	くさうり	まのころ	あさけ
すのさけ	菊さけ	天むさけ	あさけ
ぶらんのか根	彩酒	くさけ	中くみ
よどり酒	ひやう		

# 九月

長月 終ごら月 きてる月  
 秋 素 秋 無射

重陽	きくみり	らあふ葉	うり葉白
菊のきん	葉のさき	九日小袖	秋行り日
室の市	十二夜	ほの月	うり名月
二夜のみ	夜うみき	菊	きくあらせ
きくみせ	せりく菊	全月あき	くあさき
ころひき	おろくさ	菊さく	ささあけ
うらうれ	楓らふ	菊むさ	あ
くさ	あき	木の葉	うら
金らん	九年母	あゆらん	かう



根 売

ざくろ

せんどん

くろくま

くづね

うそ

うらみ

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

急のこ

さちのこ

いらね

あいのや

さく

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

袖

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

ゆ

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

あま

十月

小六

春

陽月

鐘

神

神

神

神

い

い

い

い

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

村の花  
行ふ花  
花柱  
花の花

この花  
こころし  
く川  
うすし

油 香  
ゆき  
雪うき  
月海

この母  
久松川  
ふら川  
くけ 葉

あんな  
あんな  
納豆  
納豆ね

後  
ひりり  
色 瓜  
かやうり

中  
くま  
せうが  
麦 蔕

そば  
葉の巻  
さん  
びりの花

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

十一月

十月 十一月 十二月  
黄鐘

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな

あんな  
あんな  
あんな  
あんな



香乃子 さらふまき うんく香 花つくらう  
初 御 くらつき 石 花 少さめさう

くさの梅 太山香きこ つかの香 香玉梅  
宝の梅 むろ咲 かんきく ありき

玉うり ざんぞん いてふ 香乃子  
香さゆ 香 伊 香乃子

ゆきゆき 香 香 香乃子  
ゆきゆき 香 車 香乃子

香乃子 香 香 香乃子  
香乃子 香 香 香乃子

香乃子 香 香 香乃子  
香乃子 香 香 香乃子

香乃子 香 香 香乃子  
香乃子 香 香 香乃子

香乃子 香 香 香乃子  
香乃子 香 香 香乃子

香乃子 香 香 香乃子  
香乃子 香 香 香乃子

香乃子 香 香 香乃子  
香乃子 香 香 香乃子

十二月

師 除月 おろ月  
正月 大呂

しよのりら 正月の香 大呂の香 ありき

又天珠香 おろの香 かんきく かんきく

香乃子 かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく かんきく

かんきく かんきく かんきく かんきく

うむらう 日らのま ぬらとる 峰むらう

爺 ち ちとー ちーのね 除 夜

移さぬ 柳うり いらのひら ちようたけ

やく拂 やくおー 豆まこま 豆こやー

豆うら 鬼の豆 ついふ 鬼やしひ

ちー男 小まらう 紫行うり 月くさ

りー後 ちよと養 岡 見 ちこつ

曆のすく ちよみの果 ちよま磨 ちよま磨

ちよめり けー ちよと ちよのつ

ちよの尾 ちよのれ ちよと ちよの坂

ちよの末 ちよの末 ちよのまね ちよー一

ちよー用 ちよー度 年志まひ ちよの

甚と味 ちよらま 栗林 終と

小つどり ちよとち ち 筋陰

○發句切字

ちよ ちよま ちよま ちよら ちよら ちよれ ちよら

ちよあり ちよ ちよら ちよら ちよら ちよら

ちよと ちよま ちよら ちよら ちよら ちよら

ちよれ ちよら ちよら ちよら ちよら ちよら

ちよら ちよら ちよら ちよら ちよら ちよら

ちよら ちよら ちよら ちよら ちよら ちよら









祭 甲斐の名目ありハ勿論おちつれてゐるよ  
まうりといひてもまままのつて一うそはまこ  
雨乞 風呂 庭 うらハ 清水 汗  
愛りうしてまあり平のありてハ雑し  
お着 少は満 あらうハまゝ平のまゝ  
雑しハカク  
けふんおまゝあり一せ乃 最後まゝ  
○同字別吟

春日よ 春も日と 流け雲に せきき 初念に いちち  
中よ あくる 南世まゝ 珠院よ いよく

関白に せき 扱よ あり けふ おこあふ  
これよ 加まゝ せき せき せき せき せき せき  
けふ あま せき せき せき せき せき せき

○さー合世言 古式

目よ 観花よ つ母よ や けふ せき  
弓矢よ 弱ハ けふ せき  
明よ あま せき せき せき せき  
あゆむよ せき せき せき せき  
鼻よ せき せき せき せき  
けふ せき せき せき せき

名もよき事天竺日本や  
夕の字も名非一鳴よ一打と一  
少り物と平書や火の面打の少り  
西条路のめくとも鳴よ一打哉  
新に陰里ふ月日やさそくれふ  
昔夕の二字も鳴よ一打と一  
てふ毎路よ衣類や穢人ふ  
せりおととも鳴よ一打と一  
耶系平書や一打よのどろ今にふ  
ヒタよ月二の去そり

糸の結や衣類よ右着よは南  
東履ふせしと二の去ふたり  
そよふ雲之くそふを鳴くふ外  
こころりくりハ二の去そりし  
けしめたや柴目ふ目次ふころり  
同字のほろふも二の去あたり  
右よ少りこりこりよおや風ふ風呂  
けしよす毎路ハ二の去そりし  
火下りゆりも少りし一打やふふそりま  
ゆえんふあつと二の去りふりり



あつたはあやみよ及右あど  
こやこよ文ハ二り去そり  
食へ服束よちちと物りする  
錦よ八幡三りの去るべし  
父母よ伯父伯母あそやかろくそ夜  
ふさあよこちちらハこり去し  
風炉よ風呂白ひしは物屋やうそまに  
茶の元もよこり去るべし  
物よ一残の茶よつり針よあふりり  
さるよ内さハこり去るべし

期よらと東のあそり声よ去  
鹿よ経鹿よこ句 去るあり  
衣重や作田乃乃よりあそり  
月松まらう海ハめり去  
堂よち垣よこりや物よ村  
石よ志尊七白去りあり  
山うらよ中よき馬よ一踏あど  
物よよまらよ七白去るべし  
人里に道り此何やあふこり  
あよ御守ハ七白去るあり

神のこゝろに帝の門や久くあは  
公進あまの七の白くまを  
歩乃字や白しいこのあふこ字後  
世よさくくも七の去るへし  
細よ何の海よるあつて関よせ  
渦よるも六の面きくく  
夕なれよるもあまふくあつて  
いふひくりの面きくく  
短冊よふや眠よ存ありのよ  
ういよ融ハ面きくく

若舞よ遊乃文や千の意や糸  
雲の娘よこの糸や酒よ中  
縁や縁の毛ハ面きくく  
殿門や王里神よ庭や  
床約車折のてきくく  
餓鬼よ鬼行よ着履塚よ墓  
行よさくくりのくく  
て目よ糸縁や谷よ潰よあ  
川邊よ桃竹折きくく



如いし病りては運く  
油煙しき華ハ折きし  
君の代し馬字や鞍使し  
伶人は翁折とまきし

○同新製

軍中も同も折しも海川も  
沖沢磯も三つを去あり  
馬車虫負も後版と條  
一丈上二つと定へるあり

飯種と馬の田の吳名田をり  
脊虫の吳種と定めぬ  
龍身も鬼もふりしし  
かゝりや序系より山吹も  
子々一丈上二つあり  
片燕柳とまきし  
菊もちりし二重上三つに  
肩の頃も何れも昔より袖も  
多も供もいし久し

注く多し照つても思つても桂川も  
毒も新りも向ハツし  
目鼻と算口の中野ハ類を  
打とく入るハ口ツレツク入し  
綱上魚野まよ多やきこののや  
かへも海苔も植物は二百  
月次月日月穀こりよ  
てる月と月又り去と  
玉粒上由ハ一打写ふれし  
手取ハ打めてよハハ社き付

み終日よ松さしあふ月のりも  
あつらしつても去る場はあ

○ 勺數去嫌

春秋

夏冬

神祇

こりはくきくみり去るべし  
あつらつて二りよてよそは  
こりつてきくこり又ハみり去  
平りよそハ一りよそすてよ  
二りちり多のせはこりこり  
平りよそハ一りよそすてよ



釋教

戀句

垂常

述懷

居所

二句よりまゝのハセバ二句の去述懷  
廿二句の合を二句の去も二句の

二句より二句の去つて二句の去

二句の去を二句の去ハ捨ハ

二句の去を二句の去ハ捨ハ

二句の去を二句の去ハ捨ハ

二句の去を二句の去ハ捨ハ

二句の去を二句の去ハ捨ハ

二句の去を二句の去ハ捨ハ

二句の去を二句の去ハ捨ハ

人論

山類

水魚

生類

植物

二句つゞきても二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

二句の去ハ捨ハ

食類

くひ物のことものりりての二句も  
つづく二句さるべし

夜類

二句より多るべしせぬものさる  
常の事なりんあはれ二句さる

器財

二句さるべしふらりそふ二句  
つづく二句さるべし

夜分

二句さるべしつづく二句さるべし  
二句さるべし

時分

二句さるべしつづく二句さるべし  
夕暮と夜ハ二句さる

降物

一うさるべしつづく二句さるべし  
つづく二句さるべし

風体

一うさるべしつづく二句さるべし  
二句さるべし

天象

一うさるべしつづく二句さるべし  
二句さるべし

儀物

一うさるべしつづく二句さるべし  
個々の事なりん儀物事なり

支体

二句さるべしつづく二句さるべし  
かゝらふ所さるかゝれハ二句さる



書体

一ウのまゝに抄へし一ウのまゝに  
筆よとんぞくあど二ウのし

欠体

一ウのまゝに抄へし一ウのまゝに  
あゝとんぞくあど二ウのまゝに

病体

二ウのまゝに抄へし一ウのまゝに  
痛むよ針きりも二ウのまゝに

名所

二ウのまゝに抄へし一ウのまゝに  
名所の虫乃名ぬ二ウのまゝに

旅体

二ウのまゝに抄へし一ウのまゝに  
りきことん痛とかりて二ウの

字

何れもくを酒二ウのまゝに抄へし  
りきことん痛とかりて二ウの

○百韻の式

初表八句

七月目

裏十句

九月め月  
十三句め月

二ウ十四句

十一月め月

二ウ十四句

幼うは  
同し

三ウ十四句

二の書てふ  
同し

三ウ十四句

二のうま  
あるし

名ヲ十匁 同テ表

名ウ八匁

花セウ目

○ 米守

初表八匁 セウ目

裏十二匁

セウ目 花十匁

二ヲ十二匁 十匁

二ウ十二匁

初ウ

三ヲ十二匁 テ表

三ウ十二匁

同テウ

名ヲ十二匁 テの

名ウ八匁

花セウ目

○ 七十二候

初表八匁 セウ目

裏十二匁

セウ目 花十匁

二ヲ十二匁 テウ目

二ウ十四匁

同テウ

三ヲ十四匁 テウ目

三ウ八匁

花セウ目



○源氏行

初表六分

五月め

裏十二分

七月め月  
十月め花

二ツ十二分

十一月め

二ツ十二分

十一月め  
二月め

三ツ十二分

二月め  
三月め

三ツ六分

三月め  
四月め

○四十四

初表八分

七月め

裏十四分

九月め月  
十二月め花

二ツ十四分

十一月め

二ツ八分

七月め  
八月め

○哥仙

初表六分

五月め

裏十二分

七月め月  
十月め花

二ツ十二分

十一月め

二ツ六分

五月め  
六月め

○長哥行

初表八句

七句め

裏十六句

九句め月  
十句め花

二ウ十六句

七句め

二ウ八句

七句め  
花

○短哥行

初表四句

裏八句

一句め月  
七句め花

二ウ八句

七句め月

二ウ四句

三句め花

此撰ハ部とくや「懐宝乃」  
ふれバ一「堂」六廿「因」  
たつ子「松」部とく「有」  
何川めとを「席」上の  
附録「とく」  
まゝのり「とく」



初を帯りて後をくもりて  
見よ人愛後世の着をまふと  
あこられ

延享元甲子秋

才長門人

倉橋芦中校

江戸本石町十軒店 萬笈堂英平吉藏

其角發句集 二冊 嵐雪句集 二冊

蓼太句集 六冊

俳諧文集 二冊  
蟹守大人輯  
尚時言名の俳人の文珍輯

發句古今撰 三冊  
同輯  
附葛里連句集

俳諧新五百題 二冊  
護物大人輯

新五百題 後編 同輯

二冊

發勺類聚 蓼松大人重校

二冊

發勺類題 雪中菴火人輯

二冊

發勺五百題 白雄房撰

二冊

俳諧恋の志とらふ 律雪庵北元大人輯

二冊

志の志を是迄季をよみ恋の初あるふよりして  
恋の初よりし作む

俳諧多焼灯 季考の書と

二冊

袖のりり 季考懐中小本

一冊

俳諧四季名奇 懐中本流 季考大成り

一冊

俳諧季考便覧 懐中一牧摺

萬葉用字格 春堂上人指 万葉集のり

一冊

定家卿のり

一冊



今古の形巻

言井八穂大人輯折本

一冊

尚古の形巻

山本明徳大人輯折本

一冊

対照の形巻

巻波の大人輯折本

一冊

音俊撮要

喜望上人輯懐中本

一冊

子鳥の跡

中臣親満大人輯

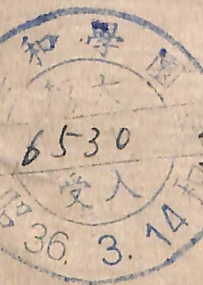
一冊

此の巻と巻紙短尺の書りともかゝり隠然然  
ちりつて古人の書箋よりうらうらうと

享和二壬戌年九月再板

文政四辛巳年十月補刻

江戸本石町十軒店萬笈堂英平吉



蘇信亭